

学校だより 5月号

令和5年4月28日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045 (811) 6710 後期課程 ☎045 (811) 6030

「成長」

校長 野口 弘之

「万緑の中や吾子の歯生え初むる」

これは、俳人中村草田男の有名な俳句です。中学校国語の教科書にも掲載されることがあります。周囲が緑に囲まれる季節の中、子どもの歯が生え始めたという意味ですが、生まれたばかりのわが子の歯が生え始めた喜びを新緑の生き生きとした様子に重ね合わせて表現し、生命の輝きや美しさを感じ取ることができます。5月は、新緑の季節です。大型連休後には、学校の教育活動も本格的に始動し、後期課程では、9年生の修学旅行、体育祭などの学校行事もあります。そうした中で、児童生徒一人ひとりが生き生きと活動し、まさに「緑」の中で輝く姿を大いに期待しています。

ところで、先日、「ようこそ1年生の会」がありました。本年度、最初となる全校での交流の場面でした。まだ入学したばかりの1年生が、6年生のお兄さん、お姉さんと一緒に入場したところから始まりましたが、6年生は、前期課程の最上級生としての務めを立派に果たしていました。その後、各学年からの歓迎の言葉や〇×クイズなど、皆で楽しい時間を過ごすことができました。小中一貫の義務教育学校ならではの子どもたちが交流する企画でしたが、中でも、9年生の歓迎の言葉の中で、1年生に対して、「困った時には、お兄さんお姉さんに相談してください。」と表現していたところが印象に残りました。そこには、緑園学園の最高学年としての自覚が感じられたからです。とても頼もしく感じた場面でもありました。また、後期課程では、進級生を迎える会や生徒会オリエンテーションとともに部活動オリエンテーションがありました。そこでは、各部が活動内容を説明し、7年生に入部してもらおうと一生懸命パフォーマンスする姿もありました。こうした、子どもたちの活動を通して、1年前と比べて、一人ひとりが確実に成長していると実感することができました。

本校のグランドデザインには、この緑園学園で育成を目指す資質・能力をいくつか掲げていますが、その中に、「自己有用感」や「思いやりの心」「コミュニケーション力」も含まれています。また、五つのコンセプトの中の一つである「異学年交流」では、「シームレスな環境の中で、思いやりの心を育み、自己有用感やコミュニケーション力を高めます。」と表現しています。1年生から9年生までの継ぎ目のない小中一貫という環境の中で、お互いに思いやりの心をもつことができたり、子どもたち一人ひとりに自己有用感をもたせたりすることができる教育活動を今後も充実させていきたいと考えています。全校の児童生徒の皆さん一人ひとりが輝き、成長することができる学校づくりをこれからも目指していきます。

〈緑園学園の五つのコンセプト（特色ある教育活動）〉

表現・未来
デザイン科

ICT 活用

ESD
(SDGs)

国際交流

異学年交流